

# 決算の 細部まで チェック

委員会での審議の概要をお伝えします。

## 復旧・復興

**問** 山田型復興住宅に関する設計事務所への委託内容は。

**建築住宅課** 床面積が15、18、25坪の基本プラン作成を委託している。年度内にモデル住宅を完成させたい。

**問** 高台住宅団地の擁壁設置について、宮古管内と気仙地域での取り扱いに差があるが理由は。

**建設課** 市町村の基準による。町では1メートル未満は植生シートによるのり面処理となる。事業費を抑えることも

あるが、全ての宅地に擁壁を設置すると宅地の出入り口等を自由に確保できなくなるのが考えられるためである。

**問** 宅地間の段差への擁壁設置に対する補助は。

**建設課** 擁壁設置に対する補助の考えはない。

## 暮らし

**問** 被災者の心の復興、なりわいの再生、コミュニティ再構築に関する主な事業は。

**企画財政課** 地域支え合い体制づくり事業や高齢者地区組織支えあい事業、水産事業者の再起を支援するための各種補助事業がある。

コミュニティ再構築は決算上の数値としては

あまり表れないが、住民協働として仮設住宅自治会に補助金を支給したり、相談員の配置等を行ったりにしている。

**問** 山田病院に時間外の受け入れ体制整備の要望をしてほしいが。

**健康福祉課** 時間外の対応を県医療局に要望している。医師不足であるため、夜勤が可能な医師の確保に取り組んでいる。

**問** 新斎場の整備時期は。  
**町民課** 30年1月の使用開始を目指している。

## 財政

**問** 予算額と収入済額、支出済額に大きな差があるが。

**企画財政課** 決算では予算額に前年度からの繰り越しや翌年度への繰り越しが増減されるため。

**問** 26年度の普通交付税額は。国勢調査を踏まえ、27年度分の見込みは。

**企画財政課** 26年度は31億9200万円、27年度は31億7100万円ほど。現在集計作業を進めている。人口が激減してさまざまな項目の補正により、交付税額は激減しないと見込んでいる。

**問** ふるさと応援寄附金の用途は。寄付額や件数の年度間比較は。

**企画財政課** 産業振興や生活基盤の整備、仮設住宅の駐車場整備などに使わせてもらった。寄附者の意向に沿って使用することになっている。

10月26日時点で631件で26年度の3倍、金額は200万円増である。



ふるさと応援寄附金等で整備された駐車場

## 税

**問** 被災地の固定資産税減免制度はいつまで継続されるか。

**税務課** 浸水区域等の減免は27、29年の3カ年の予定。他市町村の動向を

見ながら実施したい。  
**問** 町民税の収入済額が増額となった要因は。

**税務課** 個人収入が増えたこと、納税の指導の成果が出てきたこと、震災以降しっかりと納税してくる人が増えていることだと考える。